



## <速報> 東京芸術祭特別公演

### 「Undercurrents」オンライン配信 1月11日(月・祝)

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け中止となった、都内各地を舞台に舞踏のプログラムを展開する東京芸術祭特別公演ファンタスティック・サイト(共催:東京芸術祭実行委員会)を2021年1月から5月の期間で一部内容を変更して再開いたします。

本プログラムは東京芸術祭総合ディレクター宮城聰のディレクションによる大駱駝艦・天賦典式「Crazy Camel Garden(クレイジー・キャメル・ガーデン)」を上演。加えて、東京芸術祭プランニングチームのメンバーであり、フェスティバル/トーキョーのディレクター、共同ディレクターを務める長島確と河合千佳のディレクションによるフィルム&パフォーマンス「Undercurrents(アンダーカレント)」(参加アーティスト:岩淵貞太、大橋可也&ダンサーズ、黒田育世)を実施します。

「Undercurrents」1つ目のプログラム、大橋可也 & ダンサーズ《Tune To A Dead Channel: Departure / Arrival》のArrival 先行オンライン配信(無料・要予約)が2021年1月11日(月・祝)16:00から行われます。ぜひご覧ください。

1960年代に東京で生まれた「舞踏 Butoh」は、  
近代以後のアジアから唯一、世界中に広まった芸術ジャンルです。  
その「舞踏」の国際的評価を確立した大立者の一人＝舞踏界のレジェンド麿赤兒、彼の率いる大駱駝艦、  
そして境界上を疾駆する気鋭の舞踏家たちが、2021年春の東京を惑乱します。  
前近代への身体の地下通路を掘り当てた稀代の舞踏家による乾坤一擲で、  
かつて東洋と西洋がガチでぶついていたこの街の埋蔵エネルギーが油田のように噴き出す場所。  
それが「ファンタスティック・サイト」です。  
<東京芸術祭総合ディレクター宮城聰>

### 【ファンタスティック・サイトとは】

舞踏[Butoh]は、日本の土着的な身体性や伝統的な精神性を引用した前衛性の強い身体表現の様式であり、またアメリカのジャズダンスなど当時の最先端のダンスを貪欲に吸収し、開発されました。今日の海外では独自に語り継がれ、世界各地で BUTOH フェスティバルが開催されており、過去、現在、未来、そして日本と世界をつなぐ、類い稀なる芸術表現です。

オリンピック・パラリンピックが開催される東京で、彼ら舞踏家たちによる新たな芸術表現と、歴史的・伝統的な建造物や街並みを邂逅させることは、東京を舞台とした芸術文化の歴史の出会いでもあり、未来を創出・発信し、芸術文化都市東京の魅力を再発見するまたとない機会となることを願っています。

## 【東京芸術祭とは】

東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指した、都市型総合芸術祭です。

東京の芸術文化の魅力を分かりやすく見せると同時に東京における芸術文化の創造力を高めることを目指しています。中長期的には社会課題の解決や人づくり、都市づくり、そしてグローバル化への対応を視野にいれて取り組んでいきます。

◇本リリースに関するお問い合わせ◇  
東京芸術祭実行委員会事務局  
TEL050-1746-0996(平日 10:00-18:00)

① 長島確・河合千佳(フェスティバル/トーキョーディレクター)  
ディレクション企画

## フィルム&パフォーマンス「Undercurrents」

出演: 岩渕貞太、大橋可也&ダンサーズ、黒田育世  
日時: 2021年1月11日(月・祝)、3月(調整中)

### 【Undercurrents とは】

Undercurrents とは、表面には現れていない流れを意味する。

東京の下には見えない江戸が流れているように(江戸時代の水路が現在の都市計画の下敷きになっている)、誕生から60年経った舞踏のスピリットも、表向きの形を変えながら、脈々と受け継がれている。今回は、舞踏の影響を受けながら、それぞれの方法で身体と向き合い活動を続けている岩渕貞太、大橋可也&ダンサーズ、黒田育世の3組を取り上げる。3組がそれぞれ異なるコンセプトをもとに、東京の歴史の移り変わる風景を借景にした踊り/ダンスのフィルム化を行う。撮影された3つの映像作品(各20分程度)は、アーツカウンシル東京の公式YouTubeチャンネル及びファンタスティック・サイト公式ウェブサイトで配信される。「Undercurrents」クリエイションチームには、3作品を通して、映像ディレクションに宮澤響(Alloposidae)が、リサーチに東彩織が参加。劇場での上演に限らず、サイトスペシフィックな作品に関わってきたチームだからこそそのアプローチで、東京の「サイト」と、踊り手の「身体」を接続させる。

ディレクション: 長島確、河合千佳(フェスティバル/トーキョーディレクター)

映像ディレクション: 宮澤響(Alloposidae)

リサーチ: 東彩織

### ①Arrival 先行ライブ配信

大橋可也 & ダンサーズ『Tune To A Dead Channel: Departure / Arrival』

日程 2021年1月11日(月・祝) 16:00 ライブ配信開始

撮影地 森崎工業第二工場(北八王子)※オンライン配信のみ

料金 無料・要予約

予約開始 2020年12月22日(火)

予約方法 下記、予約フォームより必要事項を入力の上、送信してください。

URL: <https://ssl.form-mailer.jp/fms/61138551689419>

※ご予約の方にご視聴リンクをお送りします。 ※個人情報は厳重に管理し、本事業の運営およびご案内にのみ使用します。

### ②フィルム

岩渕貞太 / 大橋可也 & ダンサーズ(Departure) / 黒田育世

※詳細は後日発表いたします。

制作: NPO 法人アートネットワーク・ジャパン

協力: フェスティバル/トーキョー実行委員会、八王子市、公益財団法人八王子学園都市文化ふれあい財団、株式会社カフス、

公益財団法人セゾン文化財団 ほか

② 宮城聰(東京芸術祭総合ディレクター)ディレクション企画

## 大駱駝艦・天賦典式「Crazy Camel Garden」

出演:大駱駝艦

開催地:調整中

日時:2021年5月開催予定

### 大駱駝艦(だいらくだかん)・天賦典式

麿赤兒主宰。1972年創設。

その様式を天賦典式(てんぷてんしき:この世に生まれ入ったことこそ大いなる才能とす)と名付け、忘れ去られた「身振り・手振り」を採集・構築し、数多くの作品を生み出している。1982年、舞踏カンパニーとしては初のフランス・アメリカ公演を行い、鮮烈なインパクトを与えて広く「Butoh」を浸透させた。また、麿赤兒の考え方である「一人一派」を実践し、山海塾や室伏鴻など多彩な舞踏グループ及び舞踏手を多数輩出している。現在、東京・吉祥寺にあるスタジオ「壺中天」(こちゅうてん)を拠点とし、様々なユニットを内蔵、大駱駝艦・天賦典式公演並びに壺中天での公演を精力的に行っている。舞踏ワークショップも

随時実施、毎夏恒例となった長野県白馬村での舞踏体験合宿には、国内外から多数の参加者が集まる。

1974年、87年、96年、99年、07年、12年舞踊批評家協会賞受賞。



写真:川島浩之

### 振付・美術・演出:麿 赤兒(まろ・あかじ)

出演:村松卓矢、田村一行、高桑晶子、鉾久奈緒美ほか

宣伝写真:川島浩之

図匠:祖父江慎

衣裳:堂本教子

美術:安部田保彦

舞台監督:中原和彦

照明:森 規幸(balance,inc. DESIGN)

音響:久保勇介

制作:金 能弘

プロデューサー:新船洋子

制作協力:大駱駝艦/キャメルアーツ株式会社

宣伝協力:株式会社ポスターハリス・カンパニー

協力:cozfish / 株式会社アイネット

## 【東京芸術祭特別公演 ファンタスティック・サイト 開催概要】

名称: 東京芸術祭特別公演 ファンタスティック・サイト

(英語名 Fantastic Site—Special Performances at Tokyo Festival)

会期: 2021(令和3)年1月から5月

主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

共催: 東京芸術祭実行委員会 [豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、  
フェスティバル/トーキョー実行委員会、公益財団法人東京都歴史文化財団(東京芸術  
劇場・アーツカウンシル東京)]

※内容は予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。